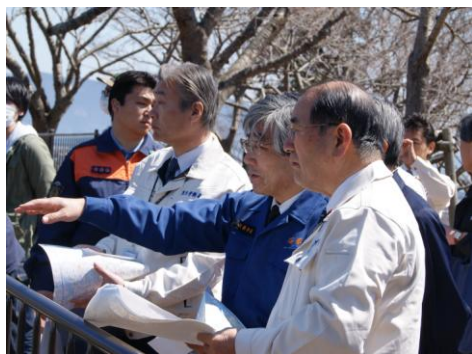


## 被災者支援・原発事故対策に全力を

未曾有の大地震以来、一月半が経過しました。しかし、いまだにたくさんの人が避難所での不自由な暮らしを続けていますし、多くの方の行方も不明のままです。復旧・復興への動きも多少はあるものの、被災地の再建、あるいは新興にはどれくらいのかかるか先は見えません。加えて福島第一原発の事故についても解決の目処はいまだに不鮮明であり、放射能によるさまざまな影響への心配を払拭することはできません。政府が一丸となって国民の不安を除去する努力を続けなければなりません。

### 細川大臣、現地視察

細川律夫厚生労働大臣も、4月6日、宮城県の東松島市と石巻市を訪れ、避



石巻市長から被害状況を聞く細川大臣と、津波が襲った中心部の光景

関係の皆様と直接語り合いました。

細川大臣は視察後、次のように語っています。「避難所は一見すると落ち着いた雰囲気でしたが、実際に皆さんのお話をうかがうと、住まいや仕事に対する不安の大きさを実感しました。特に、仕事の面は、雇用保険や雇用調整助成金の弾力的な給付、震災関連の雇用の創出など、ハローワークを中心に自治体と協力しながら施策を進めているところですが、今後ますます大きな課題になってくるのは間違いありません。医療・保健・介護、心のケアなど生活の維持に欠かせないサービスの充実を含め、厚生労働行政の責任者として、さらに努力しなければならないと考えています。大変緊張し、あらゆる状況を想定しながら、努力を続けています。」

### 法案、補正予算の審議進む

震災の影響などで審議の遅れていた国会も、4月中旬以降、通常の状態に戻り、議論が進んでいます。

4月20日に「戦傷病者等の妻に対する給付金支給法改正案」が参議院本会議で可決、成立しました。細川代議士が大臣に就任し、約7ヶ月経ちましたが、初めての厚生労働省所管の閣法（政府提出法案）の成立でした。

22日には衆議院本会議で、「雇用・能力開発機構廃止法改正案」が、民主・自民・公明などの

賛成で可決・成立しました。この法案は、昨年の臨時国会で成立間際までいったものの、継続審議になっていたもので、やっと成立しました。



衆議院厚生労働委員会で答弁する細川大臣

## 求職者支援法案審議中

28日には衆議院本会議で、「求職者支援法案」が可決され参議院に送られました。この法案は、雇用保険が切れた人、あるいは雇用保険に加入していない人に対し、職業訓練を受けてもらいながら10万円程度の生活費を支給するものであり、この仕組みは、従来からのセーフティネットである生活保護に対し、「第2のセーフティネット」と呼ばれています。この制度は今までも予算措置で行われていた基金事業を恒久化するもので、民主党のマニフェストにも記載されていました。若年層の失業・貧困が問題になっている今、求職者らの生活を守りつつ技術を習得することによって、就労に結びつけるための施策は大変重要です。

## 震災対策の補正予算成立へ

震災に対処するための第1次補正予算案が提出され、28日に審議入りしました。29、30日に衆議院、5月1、2日に参議院で審議され、2日に成立する見込みです。この予算案は一般会計で総額約4兆円。厚労省としては、災害救助などの被災者支援に約6千億円、雇用調整助成金な

ど雇用・労働関係の支援が約1兆1千億円などになっています。一刻も早く執行され、被災者の皆様の支援に回らねばなりません。

## 統一地方選挙終わる

埼玉3区でも統一地方選挙が行われ、前半の県議会議員選挙では、草加市で現職の山川百合子さんが、また、越谷市で新人の山本正乃さんが当選しました。越谷市では県内唯一民主党として2名の公認候補を擁立しましたが、民主党に対する逆風の影響もあり、新人の細川威さんは当選を果たすことができませんでした。

後半戦では越谷市議会議員選挙が行われ、民主党としては6人の公認候補、2人の推薦候補を擁立しました。現職の公認では、玉生芳明さん（4期目）、大石美恵子さん（3期目）が、現職の推薦では佐々木浩さん（5期目）が当選、元職の公認では、後藤孝江さん（4期目）が、また、新人の公認では、高橋幸一さん、福田晃さん、新人の推薦では橋本哲寿さんがそれぞれ当選しました。しかし、7期目を目指した永井龍男さんは予想外の苦杯をなめました。

細川律夫より一言

桜を觀子ニともなく早五月に入ろうとしていま、お元気ですか。休日のない私も元気です。被災地の復旧・復興はオール日本のかたで新しい東北の誕生の手伝いでき、それは新しい日本の誕生でもあり、政府・厚労省の一員として、一杯杯をなめります。